

見通し・理解・実行

長尾高校PTAの皆様には、日頃から本校の教育活動に対しましてご理解ご協力いただき誠に有難うございます。

さて、私が数年前に関わった京都大学の研究プロジェクトの中で、ある調査データに直面したことがあります。それは、全国の国公私立大学1、3回生約2,000人に対するキャリア意識調査なのですが、「将来の見通しを持っているか」「実現のために何を為すべきかを理解し実行しているか」という質問について、「見通しがあり、理解し実行している」と答えた学生の割合は26.2%、「見通しがあり、理解しているが実行していない」は37.1%、「見通しはあるが、理解していない」は9.4%、「見通しがない」は27.3%という結果が出ていました。

将来の見通しを持ち、何を為すべきかを理解しているが、実行していない学生は37.1%、将来への見通しさえ持てていない学生が27.3%であるということから、大学に入ったものの自分の将来に対する見通しを持っていない、進路実現に向けた行動が伴っていない学生が意外に多いということが見て取れます。

こうした実態を考えると、子どもたちの将来に思いをはせながら「見通しを持っていない」「理解していない」「実行していない」にならないようにしたい、ということには賛同いただけるものと思います。

ではどうすべきか？

「見通しを持たせること」「何を為すべきかを理解させること」「為すべきことを実行させること」、これら三つの要素を進路のことだけのものと捉えるのではなく、日々の学習活動で習慣づけることが大切なのではと考えます。

学校としましても、授業をはじめ進路ホームルームや進路学習、様々な行事活動、部活動、地域との連携活動等、全ての教育活動において、生徒が自主的・

計画的に取り組めるようできる限りの指導や支援に努めておりますが、今後も引き続き、保護者の皆様と共に、更に生徒のために何ができるかを考えていければと願っております。

今後とも、本校の教育方針、教育活動にご理解ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。